平成２６年度第２回佐久市総合計画審議会　議事録

日　時：平成２６年１０月２３日（水）
　　１３：３０～１４：２０
場　所：佐久市役所　議会棟
　　全員協議会室

【出席者】樫山会長、井出副会長、白井委員、青柳委員、斉藤委員、小平委員、
佐々木委員、黒木委員、石井委員、小林委員、阿部委員、丸山委員、半田委員、
竹内委員、多田委員、小柳出委員、津金委員
【事務局】矢野部長、佐藤課長、若林補佐、佐塚、小林

１　開　会
２　会長あいさつ
３　議　事
（１）第一次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について
①各部会審議報告について
・各部会より、部会審議の概要及び結果について報告
（資料５）（資料６）（資料７）
質疑、意見

（委　員）	資料７の整理番号３に「評価の基準が年度を追うごとに厳しくなっているが」とありますが、１年ごとには同じだが、だんだん積みあげていくことから数字が大きくなっているように見えるだけで、数字は平準化して並べてあるのではなかったでしょうか。
（事務局）	第１回目の全体会議の際に配布しました資料２－１の中に評価の基準を説明した所があります。各年度の目安値については、平成２８年度の目標値に対して均等に５年間で割った数値を目安値としております。評価の基準については、最終年度には目標を達成しなければいけませんが、初期の投入コストの効果はすぐには出ませんので、例えば「概ね順調」の基準は、平成２５年度は６０～１００％までのラインで、次の２６年度は７０～１００％のライン、２７年度は８０～１００％のラインというように、県の評価の基準も参考にさせていただく中で、年々評価の基準を厳しくするような方法とさせていただいております。この点について、第３部会において、後の年度のいくほど基準を厳しくするのではなく、初めから同じ評価基準とした方が良いのではないか、というご意見もいただいておりますので、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
（会　長）	最終年度の目標値が、100％目標達成となるように、毎年の目安値は同じだが、評価の基準は年度を追うごとに厳しくなっているという、今の説明はどうですか。
（委　員）	完全に等分だと思い込んでいました。
（会　長）	県の評価基準に倣ってやっているということでありますのでよろしいですか。
（委　員）	第３部会としてはそれでよいですか。
（委　員）	目標自体が最初は緩い目標になるので、それに対して達成基準も緩くなるのは少し甘いと感じます。目標自体が段階的に厳しくなっていくので、最初の基準をさらに緩くする必要はないのではないかということです。
（会　長）	第３部会の検討内容が、相当数値化が難しい部分もあったと思いま

	す。そのようなこともあって第３部会ではそのような意見が出てきたと思いますが、先ほどの説明でよろしいでしょうか。
（委　員）	はい。
（会　長）	大変広い範囲について、限られた時間の中で議論いただいた訳ですが、各部会からご報告をいただいたように、それぞれ積極的に議論いただき、御礼申し上げます。なお、各部会の評価については、資料に記載されたとおり、特記事項まで含め本委員会の総意ということでご承認いただくという事でよろしいでしょうか。 それでは、この資料に基づいた内容を答申に添えたいと思います。

②審議会答申について

・答申（案）について、事務局より説明

質疑、意見

（委　員）	チャレンジとか目標の設定の方法について議論をした記憶がないのですが。
（会　長）	我々は、それに対して進捗状況がどうかという事を評価する立場であるので、目標設定そのものは触れないルールであるということだと思います。
（委　員）	資料７の「（２）資料の作り方について」の「整理番号１のチャレンジ」の部分ですが、１０年計画でありますので、年々状況が変わっていく中で、人口も年々減っており、市とすれば人口は減らさない設定で様々な施策を講じていくということで、市民としては、それ

	は大変意欲を感じることでありますが、今回の御嶽山の噴火の災害のようなこともありますので、そういった状況の変化に対応するようなことも組み入れるような考え方の必要性もあるのではないでしょうか。
（会　長）	災害については、その分野の他の委員会やそれに近い組織が担当し、緊急に対応すると思っていただければよいのではないでしょうか。
（事務局）	第一次佐久市総合計画は平成１９年度からの１０か年計画ということで、計画人口を１０万６千人に設定しました。設定当時も、既に平成１７年をピークに人口減少が始まっており、当時の総計審の委員、市議会議員などから、本当に大丈夫なのか、という多くの意見をいただきました。そういった中で、人口を増やすために何をすべきかということで、様々な施策を盛り込んだ前向きな計画を作った訳であります。平成２８年度をもってこの第一次の計画が終了となりますことから、平成２７年度から第二次の１０か年計画の策定に入ります。その中で、第一次総合計画の計画人口であります、「１０万６千人」の数値をどのようにしていくかが大きな課題と認識しております。人口減少社会ではありますが、様々な施策を講じることにより、人口の減少を止めていきたいという思いで、新しい計画の策定に入ってまいりたいと思いますので、ご理解をお願いします。
（会　長）	佐久市は合併を経て１０万都市になり、中核都市という位置づけに変わっていきますが、これから３０年４０年間の人口増減について、日本創生会議元岩手県知事の増田寛也氏曰く、地方自治体が成り立たないと言われています。佐久市周辺も高齢化現象が進み、行政として収入と支出が合わない時代が予想されるなども視野に入れていくことになりますが、合併した市町村においても未来は大変厳しいと予想されます。佐久市はおそらく周辺の自然環境の維持、高速交通網拡大等により、中核都市として、ふさわしい仕事を１０年計画に盛り込んでいくのに、相当頑張ってもらわないといけないと考えられます。 はい、ありがとうございました。
（委　員）	佐久だけではなく、日本全国で、都市間競争などの大変厳しい状況

（会　長）	を迎えております。しかしながら、佐久は高度医療の病院、大学、介護福祉施設など地域における行政の武器を持っている有利な立地にあると考えられます。今後は、中核都市にふさわしい個性の光る市として、佐久平広域全体を見据えていくような姿勢を持って、次の１０年計画につなげていくようお願いしたいと思います。 本日のご討議も、ご発言も多くいただきましたので、みなさんの気持ちを生かした次の計画に繋げていただくようお願いします。 委員みなさんには、大変難しい時代に難しいテーマで議論して頂き、また、限られた時間の中で貴重なご意見を頂きましたことを、厚くお礼申し上げます。 答申書につきましては、このような内容でよろしいでしょうか。
（委員）	はい。
（会　長）	ありがとうございました。

（２）その他

４　閉　会